

きれいで自まんでできる町 坂町～わたしたちにできること～

本単元で育成する資質・能力

チャレンジする力

表現する力

協力・貢献する力

- 1 日時 令和4年 10月31日(月) 第5校時
- 2 学年 第4学年1組 男子15名 女子14名 計29名
- 3 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、多くの教科で意欲的に学習している。総合的な学習の時間では、坂町をどのような町にしたいかについて話し合った際、積極的に意見を出し合い、学級全体で共通点を見付け自分たちでテーマ「きれいで自まんでできる坂町」を決めることができた。

1学期の学習では、自分たちで決めたテーマに向けて、ごみ拾いをしながら町に落ちているごみについて調べた。ごみ拾いをした方が良い場所や必要な物を自分たちで決めるなど主体的に動き、課題を発見したり、解決したりすることができた。その中で、「坂町にはごみがたくさんある」「もっときれいな町にしたい」「自分たちにもできることがあるんだ」という思いをもつ児童がいた。このように、主体的に学習し、坂町のために何かしたいと思っている児童が多い。

一方で、自分たちの思いのみで考えている傾向があり、地域の人が町のごみ問題についてどのような思いをもっているかには気付くことができていない。また、多くの児童は主体的に活動することができるが、グループ活動になると自分事として考えず、友達に言われたことだけをしたり、自分から考えようとしなかったりする児童もいる。

これらのことから、地域の方々の思いも考えながら、学習内容を自分事としてとらえ、一人一人が課題に対して考えをもてるようにする必要がある。

(2) 単元観

本単元は、自分たちが住んでいる坂町の良いところや改善点を振り返り、「きれいで自まんでできる町」にするために、「ごみ問題」について探究のプロセスを通して協働的に学び、自分たちにできることを考え、実践していくことが主な活動である。実際に学区内をごみ拾いをしながら探検し、ごみの種類や量、ごみの多い場所などを調べたり、そのごみを減らすために啓発ポスターを作成したりして身近なごみ問題に目を向け解決するための活動を通して、課題解決に向けて協働的に学ぶ良さに気付いたり、地域の一人としてこれからも自分たちにできることをしていこうという思いを高めることができる。

四年生社会科「ごみのゆくえ」でも学習する通り、ごみ問題は子どもたちにとって身近な題材であり、自分たちの生活をもとに、体験的・実践的な学習活動を行うことが可能である。ごみを減らす活動を実践する際も、生活に密着した活動が行いやすいので、意欲をもって継続的に取り組むことができる。

(3) 指導観

指導に当たっては、まず、単元を通して児童の「こんなことがやりたい!」「こうしてみたい!」という思いを大切にしながら学習を進めていく。導入部分では、坂町の「ひと・もの・こと」について考え、坂町の魅力や課題について話し合い、「ごみを減らしたら坂町がもっときれいになるのではないか」と考えテーマを設定した。そして、興味関心が高まったところで、インターネットを使ったり、実際に町に出てごみ拾いをしたりして坂町のごみの現状についてくわしくなった。

次に、ごみがたくさん落ちているという現状から、ごみを減らすために自分たちに出来ることは何かないだろうかという課題につなげ、探究的に解決させたい。

自分たちにできることに取り組んだ後は、その取組の成果や課題を分析し、より一層自分たちの生活とのつながりを感じるために、新たな学習課題を設定することにつなげていきたい。

さらに、児童がより主体的に探究できるようにするために、次の4点を意識して指導を行う。

- ① 多面的、多角的に情報を収集できるようにするために、自分たちが町に出て情報を集めたり、地域の人と交流し、地域の人目線の情報も集めたりする。
- ② 自分ごととして考えられるよう、地域の人と関わり、地域の人の思いや自分たちの取組への期待を感じ取れるようにする。
- ③ 一人一人が課題に対して考えをもてるよう、集めた情報を、ICT機器や思考ツールなどを活用して整理し、表現する際は個人で思考する時間を確保する。
- ④ 協働して学ぶよさを感じられるようにする。

これらの活動を通して、ごみを減らすために自分たちに出来る具体的な取組について考え、自分たちの生活とのつながりを意識しながら行動したり生活したりできるようにしようという思いにつなげたい。

4 単元の目標

- 坂町のごみ問題の現状について調べたり、課題解決のために協働して取り組んだりすることを通して、ごみを減らす取組を続ける人々や組織の意図や願いを理解するとともに、ごみを減らすために自分たちに出来る具体的な取組について考え、自分たちの生活とのつながりを意識することができる。

坂中学校区として系統的に育成を目指す資質・能力の具体の姿（4学年）	
チャレンジする力 【挑戦】【粘り強さ】【解決力】	・課題や自分たちで決めた目標（きれいで自まんできる町）に向けて、実践したことが上手くいかなくてもあきらめずに取り組むことができる。
表現する力 【自分】【目的・相手・場面】 【工夫】	・自分の考えを、目的や相手に応じて、根拠を明確にして伝えることができる。
協力・貢献する力 【役割】【行動】【感謝】	・地域のために自分たちにできることは何かを考え、取り組み、自分たちの行動と坂町の環境美化のつながりを感じている。




5 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①坂町のごみ問題の現状について理解する。 ②ごみを減らそうと活動を続けている人や組織の存在、思いに気付いている。 ③ごみ拾い等のフィールドワークを通して、坂町のごみ問題の現状を理解し、取組を考えることで、自分たちの生活と環境のつながりに気付いている。	①坂町のごみ問題に対して課題を設定するとともに、解決に必要な情報を明確にしなが具体的取組の計画を立てている。 ②坂町の現状をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選びながら収集している。 ③坂町の課題を改善する活動を進めるために、事象を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な活動を決定している。 ④坂町のごみを減らすことに向けた自分の考えを、表現方法の特徴や表現の目的に合わせてまとめ、表現している。	①自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。 ②自分と地域や地域の人々等とのつながりに気づき、地域のためにできることを考え行動している。 ③課題解決のために、進んで挑戦し、対象に対して自ら働きかけようとしている。

6 他教科等との関連

国語科	社会科	道徳科	特別活動
「クラスみんなで決めるには」 「もしものときにそなえよう」 「調べて話そう、生活調査隊」	「水はどこから」 「ごみのしよりと利用」	「また来年も待ってるよ」 『ふれあいの森』で	「遠足でなかよし」 「上手な掃除の仕方」 「大掃除」 「社会見学」

7 指導と評価の計画 (50 時間 本時 32/50 時間)

探究の過程	時間	主な学習内容 ☆自他を意識させるための指導の工夫	知	思	態	評価規準及び評価方法
課題設定	2 時間	<p>坂町の「ひと・もの・こと」について考えよう。</p> <p>・昨年度までの総合的な学習の時間の内容を振り返り、今年度のテーマについて考える。</p>				
課題設定	2 時間	<p>「安心・安全 きれいで自まんでできる坂町」に向けて何ができるか考えよう。</p>   <p>・目指す町に向けてどのようなことをやってみたいかを考える。 ・やってみたいことの中から取り組む順番を決め、計画を立てる。 ☆一人一人の課題に対する考えをしっかりと聞くことにより、少数意見を大切にすることができるようにする。</p>				ワークシート 行動観察
情報収集整理・分析創造・表現振り返り	14 時間	<p>坂町のごみ問題について調べよう。</p> <p>思っていた以上に ごみがおちていて びっくり!!</p>  <p>坂町はきれいな町だと思っていたけど、ごみがたくさん落ちていた。どうしたらポイ捨てがへるのかな。 (ふりかえりより)</p> <p>・社会科の学習で学んだことを生かして坂町のごみ問題事情についてインターネットや実際に町に出て調べる。 (量, 種類, 落ちている場所など) ・調べたことを整理分析し, 落ちているごみを減らす方法を考える。 ・ポイ捨て防止啓発ポスターのデザインや掲示場所を, 自分たちがこれまで調べた情報を根拠にしながら考える。 ・ポスターを作成する。 ☆協力に必要なことや自分にできることを考えさせ, 全員で共有す</p>	① ③	① ② ④	① ② ③	ワークシート 行動観察

坂町のためにやってみたいこと、できること

		ることにより、協働的な活動を意識させる。					
課題設定 情報収集 創造・表現 振り返り	12時間	<p>坂町のごみを減らすために自分達にできることに取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期末に作成したポスターを貼る計画を立てる。 (許可を取る必要性、許可を取る場所、許可の取り方など) 地域の方々に会いに行き、ポスター掲示の依頼をする。 地域の方々の思いや願いを聞き入れ、より良いポスターを作成し掲示する。 ポスターの効果を知るためには何を調べたらよいか考える。 	<p>ポスターを貼った場所</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の公園・坂駅・保育園、こども園・神社 <p>たくさんの人の目に触れ、意識してもらえるよう貼る場所を検討し、設置をお願いする活動も行った。</p>	① ②	②	① ②	ワークシート 行動観察 振り返りシート
		<p>ポスターの効果をもとに、どのように調べたらよいか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際にポスターの効果調べ、分析し、成果や課題を理解し次への課題意識をもつ。 	<p>ポスターを貼って1ヶ月経つが、通学路や公園にはゴミのポイ捨てがまだあり、ポスターを見て意識してくれている人はいるのか、不安に感じた児童が居たことから、ポスターの効果調べることになった。</p> <p>本時で、誰に・どのように・何をして調べるかを考えた。</p>				
課題設定 情報収集 創造・表現 振り返り	20時間	<p>坂町のごみを減らすために、さらに自分達にできることに取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までの取組の成果や課題を基に、グループごとにごみを減らす取組の計画を立てる。 計画した取組をほかの取組を計画している友達と共有し合い、それぞれの取組について意見交換をする。 ほかの取組を計画している友達と意見交換をした内容をグループの友達と共有し合い、自分たちの計画した取組をより良いものにしていく。 グループごとに考えた取組を発表し、学級として取り組んでいくものを決めていく。 取組を実践する。 取組の成果や課題をまとめる。 今までの活動について、個人個人で思ったことや気付いたこと、これからの生活について考えたことなどをまとめる。 <p>☆それぞれの取組に対する成果や課題を聞くことにより、自分や友達の成長に気付くことができるようにする。</p>		③	① ②	① ③	ワークシート 行動観察 振り返りシート 成果物

8 ルーブリック（評価規準）

	評価規準
Ⅲ	ポスターの効果を調べるために、これまでの活動で得た情報や自分たちの経験をもとに、調べる相手と調べる方法を関連付け、根拠を明確にしてどのように調べるのか考えている。
Ⅱ	ポスターの効果を調べるために、調べる相手と調べる方法を関連付け、根拠を明確にしてどのように調べるのか考えている。
Ⅰ	ポスターの効果を調べるために、どのように調べるのか考えている。

9 本時の学習

(1) 本時の目標

ポスターの効果を調べるために、調査する対象に応じた方法を考えることができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意事項（・） 配慮を要する児童への支援（◆）	評価規準 （評価方法）
導 入	1 本時の学習課題をつくる。 2 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の板書を電子黒板に映し、共有する。 今までの学習を振り返り、本時の学習課題を考える。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ポスターの効果をどのように調べたらよいか考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の流れを確認し、見通しをもたせる。 	
展 開	3 調べる対象や方法を考え、調査する対象に応じた方法を根拠を基に考える。	<ul style="list-style-type: none"> 個人で調査する対象に応じた方法を考えさせる。その際、理由のカードに考えの根拠を書くよう指導する。 ◆対象者やそれぞれの方法の特徴を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ポスターの効果を調べるために、調べる相手と調べる方法を関連付け、根拠を明確にしてどのように調べるのか考えている。 (行動観察)
	4 班の中で交流し、班の考えをまとめていく。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 自他を意識した協働的な学習 </div> <ul style="list-style-type: none"> グループで司会、タブレット係、タイムキーパーなど役割分担をしておく。 オクリンクの画面を見せながら交流するよう指導する。 班の考えはジャムボードにまとめ、その際黄色の付箋に理由を書くよう指導する。 どの対象に対して調査方法を考えているのか机間指導しながら確認し、学級全体で色々な意見が出るよう声掛けをしていく。 	
	5 クラス全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ジャムボードを電子黒板に提示しながら発表させる際、理由を付けて発表するよう指導する。 	

	6 それぞれの意見に質問や付け加え等をして考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板にはジャムボードの画面を提示し、黒板には発表に合わせて付箋と同じ色の画用紙を並べて貼ることで、次の活動の手立てとする。 <p>自他を意識した協働的な学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒板に整理された意見に対して、質問や付け加え等に理由を付けて考えたり、発表したりできるよう各班の発表内容を黒板に残しておく。 一つの対象に対して複数の調査方法が出たものはどの方法がより良いのか話し合わせる。 	
振り 返 り	7 本時のまとめをする。		
	8 本時の振り返りをする。	<p>自他を意識した振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の話合いを受けて、参考にしたと思う調査方法をまとめる。 話合いの中で自分の考えが深まったことや友達の見解で参考になったこと、話合いへの参加の仕方などを振り返るようにする。 <p>【振り返り例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初は坂小のみんなはタブレットでアンケートをとれば良いと思っていたけど、友達の見解を聞いて1年生は紙の方が良いと思った。 地域の人一人一人に聞いて回るのは無理だけど、地域の人が多く集まる場所に立ってインタビューするのは良いと思った。 実際に坂小のみんなにポスターを見たかのアンケートをとって自分達のポスターの効果を知りたい。 聞きに行くときにどのようなことを質問するのか次の時間に考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ポスターの効果を知るために、調べる相手と調べる方法を関連付け、根拠を明確にしてどのように調べるのか考えている。 <p>(振り返りシート)</p>
	9 次時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 考えた調査方法の中から実際に取り組むものを決めることを確認する。 	

9 準備物

ワークシート, タブレット, 電子黒板

10 板書計画

めあて

ポスターの効果をどのように調べたらよいか考えよう。

まとめ

調べる相手によって調べ方を変えた方が良い。

テーマ きれいで自まんできる坂町

本時の流れ

〈だれに〉

坂小のみんな

保育園の子

地域の人

家族に

〈どのように〉

タブレットで

担任の先生の協力

人が多いところに立って

直接家で

理由

理由

理由

理由

〈何をするか〉

アンケート

アンケート

インタビュー

インタビュー